

事業中評価チェックリスト

				番号	26
事業名	土砂災害対策事業 (砂防)	路線・河川 ・地区等名	ゆ あつみ 湯温海3	施行 場所	つるおかし ゆ あつみ 鶴岡市湯温海
評価該当基準	事業採択後5年間を経過した時点で継続中の事業 (山形県(県土整備部)公共事業評価実施要領 5-(1)-イ-(イ))			実施主体	山形県
事業採択年度 目標年度 [当初目標年度] (過年度評価時目標)	R2 R8 [R6] (-)	全体事業費(進捗度%)	2.0 億円 (69.0%)	事業延長等	砂防堰堤1基
		内工事費	1.1 億円 (0.0%)		
		内用地・補償費	0.3 億円 (100%)	供用延長等	なし
		内測試費等	0.6 億円		
事業の目的(地域性・特質性) ・流域内の崩壊により土砂流出が発生するなど荒廃が進み、土石流発生危険性が高くなっている。 ・重要交通網(緊急輸送道路・2次・県道)を抱えており、今後、集中豪雨等の異常気象発生時には土砂災害による人命、人家等への被害に加えて、緊急時の交通ネットワークにも甚大な被害が想定されることから、砂防えん堤を整備し、土砂災害を未然に防ぐものである。					
事業概要(主要工事内容) ・砂防堰堤1基を整備し土砂災害を未然に防止するものである。					
事業の実施状況 ・令和3年度末時点で、測量・地質調査・詳細設計・用地測量まで終了している。 ・令和5年度で用地買収を完了している。 ・令和6年度より工事用道路に着手する。					
上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード) ・第4次県総合発展計画 → 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり ・やまがた県土未来図推進指針 → 治水・土砂災害対策の推進[1-1] ・やまがた水害・土砂災害対策中期計画 → 確実に効果的な砂防関係施設の整備[5.2 土砂災害対策編 取組 2]					
今後の事業の見通し ・令和8年度の概成に向けて工事を進める。					
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。 ② 財政状況の変化 令和2年度の豪雨など、大規模な災害が発生していることから、事業箇所数が増加(97箇所(R1)→124箇所(R4))し、1箇所当たりの事業費が減少している。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 近年、局所的な集中豪雨が多発しており、土砂災害対策の必要性が高まっている。 ④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者は無く、協力体制は良好である。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象に大幅な変化は無い。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 土石流から人命と財産を保全するため、砂防えん堤工は最善の方策であり、代替方策はない。 また事業の必要性に変化はない。 ⑦ その他 保全対象となっている主要地方道余目温海線は、第2次緊急輸送道路であり、土石流による通行止めが生じないように、本事業を早期に概成させる必要がある。					
事業の投資効果 (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例					
投資効果	●土砂氾濫区域内の人家 65 戸、県道 139m、市道 817m ○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感が向上する。				
社会的割引率	B/C				
4%	23.1	B/Cの代表的 な分析指標	・総便益の現在価値 (B)	50.5億円	
2%(参考値)	33.7		・総費用(事業費+維持管理費)		
1%(参考値)	42.1		の現在価値(C)	2.1億円	
●コスト縮減・代替案等の可能性 ●実施年度毎にも経済比較に基づく工法採用や材料選定を実施しコスト縮減に努めている。 ○施設配置計画、設計及び工法選定に際しては、地形地質等の現場特性や材料・工法の比較検討を行い最も合理的かつ経済性に優れたものを採用しており代替案はない。					
当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄) ・工事用道路の設置位置に関して、地元の調整に不測の日数を要したため					
評価区分	継続 A	評価の理由	計画より2年遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力等を総合的に検討した結果、継続が妥当と判断した。		